



「日野町ブランド」
全国へ！

特集

よばれてみんかや？ 日野の『まげなもん』

おいしいお米にシイタケ、エゴマ・・・。
滋養たっぷり、地元産の「まげな」産品を
全国へ発信する取り組みを紹介します。

町の特産品を全国へ
地域ブランド創造への
取り組みが始まる

「地方創生」が叫ばれる
中、全国各地で魅力あるま
ちづくり、地域づくりに向
けたさまざまな取り組みが
始まっています。

日野町でも、オシドリ、
金持神社、たたら製鉄を
はじめとして全国に誇れ
る自然や歴史・文化、食
などの地域資源にあふれ、
それを生かした地域づく
りを進めています。特に、
町の豊かな自然で育った
コメやシイタケ、鈴原^{すずはらもち}糯、
エゴマなどの特産品は地
元の人だけでなく観光客
などにも好評で、全国に
も通用する可能性を秘め
ています。

町では、そうした特産品
の生産と販路拡大を図り、
地域の特産品を「地域ブラ
ンド」として磨き上げ全国
へ発信していくため、生産
者らを中心とした「日野町
特産品ブランド化推進会
議」を発足。地域ブランド
の創造、確立のための取り

組みを進めています。

「オシドリ」「金持神社」
日野町の顔として
特産品をアピール

「地域特産品を日野町ブ
ランドとして確立するため
には何が必要なのか」。同
会議では、特産品生産者な
どからさまざまな意見が出
されました。「ブランドと
は何か。はつきりしたコン
セプトを基にはかと差別化
を図る必要がある」「他市
町村の取り組みを参考にし
たらどうか」といった意見
から、「新たに物を作るの
ではなく、今ある物をブラ
ンド化してはどうか」など、
議論は白熱しました。

その中で、全国にも知ら
れている「オシドリ」と「金
持神社」を日野町の顔とし
て特産品のトレードマーク
にしていくことに。そして、
①各特産品の商品パッケー
ジの改良、②特産品チーム
で東京のアンテナショップ
への出店、大阪で開催され
る展示即売会出店に向け取
り組んでいくことが決まり
ました。

商品の魅力を向上させ 付加価値を高める 地域連携の可能性も

会議では、全国各地の特産品ブランド化への取り組み事例などから、「今ある特産品のパッケージを改良し、商品の魅力を向上させ全国発信しては」などの意見が多数上がりました。町ではそうした意見を踏まえ、「商品魅力アップ支援事業」を制度化しました。

これは、町内の事業者が商品などのデザイン、包装、パンフレット、ホームページなどを改良する場合に、一定の補助を行うものです。早速、町内の養蜂家ら3団体が商品の魅力向上に活用しました。

このうち、町内の養蜂家の例では、梅林敏彦さん（下黒坂）を中心に、ニホンミツバチのハチミツを「ひののん」と名付け、商品のラベルデザインやホームページ作成などに同制度を活用したほか、ハチミツを使った焼きドーナツのラベルデザインを日野高校の生徒に

依頼。焼きドーナツは、日野高生と江府町内のカフェが共同開発・試作販売したもので、商品の魅力アップだけでなく地域連携の可能性も生まれています。

「まめなかや？」から「まめなか屋」。ふるさとの 思い込め、全国へ

また、町の特産品を全国発信する際のブランド名を「まめなか屋」と名付け、ブランドの共通イメージをつくりました。「まめなかや？」という日野地方の方言から名付けられたブランド名は、日野町産のおいしい食材を、「お元気ですか？」の真心、そしてふるさとの思いを込めて届けたいという気持ちが込められています。

2月13日と14日の2日間には、東京都新橋のアンテナショップ「とつとり・おかやま新橋館」に「まめなか市」を出店。奥日野海藻米や鈴原糯、手作りみそ、エゴマ油といった特産品を出品したほか、原木シイタケを具材に使ったキノコ

バーガーやじゃぶ汁などを来店客へふるまいました。両日とも多くの人が来場、特産品も大好評で、生産者からは「こうした出店機会を増やし、ふるさとの思いを届け、広げていきたい」といった声も上がり、夢がふくらみます。

さらに、大阪府八尾市で開かれる山陰いものマルシェ（2月16日から22日まで）にも出店するほか、「オシドリ」と「金持神社」をモチーフにした「まめなか屋」の特産品シールも現在作成中です。アンテナショップなどへ出店する際や特産品を全国へ発送するふるさと便などに使用し、全国へ発信していく予定です。「日野町ブランド」確立に向けた取り組み、そして今後の展開に期待が高まります。

地域ブランド化への取り組みは今まさに始まったばかり。そこには、期待や希望だけでなく、生産者の皆さんが抱える課題なども見えてきます。次のページでは、そうした課題や特産品に寄せる思い、目指すものなどを聞きました。

『お元気ですか？』の心を込め届けます。



町特産品の共通ブランド名「まめなか屋」は、「まめなかや？」＝「お元気ですか？」という日野地方の日常のあいさつの言葉から名付けられました。

自然や歴史・文化など豊かな地域資源に囲まれたまち、日野。生産者がそこでこまめに栽培、加工した特産品を季節のたまものとして、真心を込め届けることで、人と人との“ふれあい”を広め深めていきます。

さらに、「ひの」の文字のバックに引かれた3本の曲線の色には下から「水と緑と思いやり」の意味も込められています。

オシドリや金持神社だけでなく、今も新しい魅力がたくさん生まれつつあります。そんな日野町にぜひお越しください。